

公益社団法人  
認定記念

年輪

History of  
Southern district dental association

笑顔とチムグクルの医療を

公益社団法人

南部地区歯科医師会

# 公益社団法人認定とこれからの会務

(公社) 南部地区歯科医師会

会長 湖 城 秀 久

平成25年5月1日、公益社団法人としてスタートできました。これも偏に、昭和48年の沖縄県歯科医師会の南部支部から「沖縄南部地区歯科医師会」へと独立にはじまり昭和62年に社団法人取得以来、法人組織としての誇りを持ってデンタルフェアなどをはじめとする数々の事業を企画運営し会務を継続していただいた先輩の方々の実績があったからこそ、ここに公益社団法人としての認定がおりたものと思います。その先人の先生方々に感謝の念でいっぱいです。

特に、本会の保健事業でありますデンタルフェア、そして自治体から委託を受けている1歳6ヶ月健診医、保育園嘱託医、学校歯科医などにおいて欠員が出ないよう責任を持って推薦配置することなどが公益性の高いものと評価されたと思われます。それらの事業には、数えきれないほどの多くの会員の方々がかわり努力していただいた結果、ここまで事業が継続してきたわけですから、この公益社団法人の取得は会員全員の努力が結集した結果だと考えます。

今後は、公益社団法人認定を受けたとしても、これまでの南部地区の在り方、意義や会員負担が変化する訳ではありません。しかし、本会が行っている事業が対社会的にどのように評価されているかを検証することにより、これまでの会員負担で最大の評価を得ることも考える必要が出てきているのではないかと考えています。

さらに、公益社団法人の認定を受けた団体として、対社会的に本会がどのような組織であるかをアピールするために次のような「基本理念」と「基本姿勢」を設定しました。

## 「基本理念」

### 笑顔とチムググルの医療を

## 「基本姿勢」

1. われわれ南部地区歯科医師会会員は、「生活を支える医療」としての歯科医療を安全に提供しかつ安心して受療できるよう日々研鑽に努めます。
2. われわれ南部地区歯科医師会会員は、地域住民が笑顔で健康的な生活を送れるように歯科保健医療を通じて社会に貢献することに努めます。

これからも、公益社団法人として責任を重く感じ会務を進めていく所存ですので、会員の皆様や関係各位のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 南部地区歯科医師会のはじまり

沖縄県歯科医師会の資料には、1954年頃から南部支部の文字が散見され、以降1969年まで南部は県歯の一支部として存在していました。

しかし、66年に現金給付方式医療保険が発足し、かつ復帰に伴う現物給付方式医療保険の開始を控えた状況で会務の他、対社会的活動も増え支部三役では対応が困難が予測されたため、より組織化された地区歯科医師会への脱皮が必要になり、南部地区歯科医師会が起源された。

### 沖縄県歯科医師会 南部支部臨時総会



### 南部地区歯科医師会歴代会長 (就任期間)

- 初代 与那城 勇先生 (1970～1973年)
- 2代 高良 政利先生 (1974～1975年)
- 3代 嶺井 浩先生 (1976～1977年)
- 4代 高江洲 旭先生 (1978～1979年)
- 5代 玉木 史朗先生 (1980～1983年)
- 6代 友利 政三先生 (1984～1987年)
- 7代 高江洲正勝先生 (1988～1990年)

### 南部地区歯科医師会歴代会長 (就任期間)

- 8代 新城 啓和先生 (1991～1993年)
- 9代 新垣 元洋先生 (1994～1996年)
- 10代 太田 正昭先生 (1997～1999年)
- 11代 山川 修先生 (2000～2005年)
- 12代 護得久朝保先生 (2006～2008年)
- 13代 長濱 正先生 (2009～2010年)
- 14代 友利 隆俊先生 (2011～2012年)

### 初代与那城勇執行部時代 (1970～1973年) (会員数64名)

70年6月、「良い歯の王様・女王様」表彰の会を実施するなど、親睦団体から社会的活動団体への歩みが始まっていた。分会が置かれ現在の班組織のスタートである。

72年3月、臨時総会では「定款」が制定され、4月の総会では、事業計画に「法人登録に関する検討」が上がり、三役以外に初めての理事2名、監事2名が誕生した。

与那城 勇先生



### 2代高良政利執行部時代先生 (1974～1975年)(会員数91名)

74年、最初の事務員を採用し事務局を会長宅に設置し会費の口座落としも始まった。支部長を置き、新たに2理事(保険・学術)が任命された。

75年、県歯新会館移転に伴い事務局を県歯会館内に設置した。会費月額2,500円、年間予算額300万円程度であった。高校集団健診がスタートした。

### 友利政三先生 と高良政利先生



昭和53年頃の歯科医師会館



### 3代嶺井浩執行部時代 (1976～1977年)(会員数97名)

支部会活動の強化が事業計画に取上げられ、支部会再編成が行われ10支部となった。「政経文化パーティー」への参加など政治的な活動も行われ始めた。

77年6月、病気の元、むし歯の元を絶つためには、啓蒙活動が重要であるとの認識で当時の歯科研修同好会が中心となって、県歯主催の第1回デンタルフェアが旧デパートリウボウが開催された。

### 嶺井 浩先生



第1回デンタルフェア会場の  
旧デパートリウボウ



### 4代高江洲旭執行部時代 (1978～1979年)(会員数102名)

78年12月、会員の親睦を深めるため第1回家族慰安会(現在の家族忘年会)がハーバービューホテルで行われた。10市町村の1歳6か月児健診に健診医の派遣が始まった。

会長は就任当初から、那覇市に対しデンタルフェアの補助金の要請し、何度となく交渉した結果、79年から補助金をいただき現在まで継続している。

### 高江洲 旭先生



家族忘年会の前身  
家族慰安会



5代玉木史朗執行部時代  
(1980~1983年)(会員数121名)

80年、新たに2理事(公衆衛生・広報)が置かれ、初めての定期刊行物の会報「南部地区歯科医師会だより」第1号が5月に発行された。

82年、支部会の再編を行い12支部が誕生した。第1回九州八市歯科医師会役員連絡協議会(以下、九州八市と略す)に参加した。

84年1月には那覇地区・北那覇地区歯科医師青色申告会が発足、2月に第2回九州八市が沖縄で開催され世話を務めた。

玉木史郎先生



会誌「南部地区歯科医師会だより」第1号



6代友利政三執行部時代  
(1984~1987年)(会員数158名)

84年、理事会以外に支部長を交えた拡大理事会が始まった。委員会組織が確立した。

第1回南部地区ゴルフ大会(現在112回)が開催された。

85年、第1回球技大会(ソフトボール・バレーボール)が開催された。「噛まない・噛めない・飲み込まない」現象を憂い、警鐘を鳴らすために始まった第1回那覇市学校歯科保健大会が11月に開催された。

友利政三執行部



第1回那覇市学校歯科保健大会

咬むことはなぜ大切なのでしょう



## 法人認可

85年8月に法人設立準備委員会を立ち上げ、行政との対応など様々な困難を乗り越えて、87年1月に社団法人として認可された。本会が法人格を持つことにより、デンタルフェアや健診業務など会としての対外的な活動が、あらゆる面でよりハイレベルに展開されることになった。

86年、那覇市と那覇市立病院と交渉し、口腔外科の設置が実現した。

87年、第1回デンタルフェア浦添が開催された。

法人認可を伝える新聞記事  
(昭和62年2月10日琉球新報)



第1回デンタルフェア浦添



## 法人取得を祝う与那城 勇先生の詩

南部地区歯科医師会  
法人取得を慶びて

皓き歯は 親より賜う宝玉  
健やかにせむ 吾らの業は

仄々の声 天下に響け陰る代に  
朝を呼ぼう 南歯法人

めぐり逢う 峠の道を友がらと  
草分け超えし この日忘れじ

与那城 勇

## 7代高江洲正勝執行部 (1988～1990年) (会員数180名)

90年、第1回デンタルフェア首里が開催され、那覇市内に2箇所の拠点ができ、地域密着型のデンタルフェアが推進された。

91年1月、第5回球技大会から種目をボウリングに変えて開催し現在に至っている。同年3月には、三師会を含めた会合の第1回那覇市教育委員会懇談会が持たれている。

## 高良政利先生と 高江洲正勝先生



第5回デンタルフェア



8代新城啓和執行部時代  
(1991～1993年)(会員数197名)

那覇市制20周年式典にて特別表彰を受けた。  
92年6月、「第1回那覇市かみかみ講演会」開催される。  
93年、デンタルフェアは、那覇市保健センターに小祿会場が新設され那覇市内3ヶ所に加え浦添会場の計4会場で行われた。  
94年3月、那覇市学校歯科保健大会の第1回から8回までの講演内容をまとめた「那覇市学校歯科保健大会講演録」が発刊された。

新城啓和先生



9代新垣元洋執行部時代  
(1994～1996年)(会員数215名)

94年8月号から会報「南部地区歯科医師会だより」から「綾羽(あやば)」と改名した。「あや」とは「美しい、きれい、希望」の意味である。  
95年1月、那覇市学校歯科保健大会が第10回記念大会としてシンポジウム形式で開催された。

新垣元洋執行部



10代太田正昭執行部時代  
(1997～1999年)(会員数234名)

会史編纂が事業計画に明示され、資料収集の段階から本格的な編集作業に入り、「南歯の歩み」を作成した。  
98年1月、南部地区歯科医警察協力会が発足した。  
デンタルフェア豊見城を立ち上げる。

太田正昭執行部



## 11代山川修執行部時代 (2000～2005年) (会員数238名)

介護認定審査会委員を派遣する。  
 01年3月、市民公開講座「私のかかりつけ歯科医inウラソエ」(講師仲間清太郎先生)を開催する。  
 01年10月～04年3月、ラジオ沖縄「前田すえこもこたわり健康ジョッキー」に出演(会員9名)する。  
 デンタルフェア糸満を立上げる。  
 健診サブテキスト「健診へ行こう」の冊子を作製する。

### 山川 修執行部



## 12代護得久朝保執行部時代 (2006～2008年) (会員数242名)

那覇市・浦添市における介護予防事業に協力する。  
 南部保健所の糖尿病連携会議に参画する。  
 学校歯科保健委員会から学校保健委員会へと名称変更を行う。  
 「歯～がんじゅう劇場」を開催する。  
 学校講話資料「第一大臼歯を守ろう!」を作製する。



## 13代長濱正執行部時代 (2009～2010年) (会員数254名)

09年、世界的に流行した新型インフルエンザにより、デンタルフェアを同年11月に健口講演会(講師東京歯科大真木吉信教授)として開催する。  
 那覇市医師会や南部地区医師会から講演依頼があり、医科歯科連携の機運が高まる  
 南歯ゴルフ100回大会を迎え、記念祝賀会を開催する。  
 新法人移行へ対策委員会を立上げる。

### 第33回 デンタルフェア開催後継 親子で楽しめる健口講演会



長濱 正 先生





14代友利隆俊執行部時代  
(2011～2012年)(会員数257名)

11年6月、デンタルフェア島尻会場が立ち上がる。

新法人移行への検討会を設置し、公益法人取得に向けて準備を進める。

12年6月、デンタルフェア久茂地と与儀会場を立ち上げ全9会場となる。

12年11月、「在宅診療講演会」(講師日本大学植田耕一郎教授)を行う。

那覇市の一部を除いた支部再編成を行う。

友利隆俊執行部

在宅診療講演会





公益社団法人

## 南部地区歯科医師会

沖縄県浦添市港川1丁目36番3号  
電話 098(876)7364 FAX 098(876)6085  
URL <http://nanshi-oki.org/>  
E-mail [nanbutik@atlas.plala.or.jp](mailto:nanbutik@atlas.plala.or.jp)